

全



休



《朝から夜中まで》

芸

無声映画
+
音楽演奏
+
弁士の語り

術

第3回 中之島映像劇場
2012.3.24(土) - 3.25(日)

国立国際美術館 B1階講堂 入場無料/全席自由/先着130名(午前10時より当日の各プログラムの整理券を配布/1名様につき1枚)

PROGRAM

3/24(土)

13:00 - Aプロ《御誂治郎吉格子》

15:00 - Bプロ《朝から夜中まで》 活弁:澤登翠

3/25(日)

13:00 - Bプロ《朝から夜中まで》

15:00 - Aプロ《御誂治郎吉格子》 活弁:澤登翠

※各プログラム冒頭に解説あり(10分)

※各プログラム入れ替え制となります

※音楽・柳下 美恵/全プログラム担当

※活弁・澤登 翠/各日15時の回のみ担当

主催 | 国立国際美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター 協賛 | (財)ダイキン工業現代美術振興財団 協力 | 株式会社マツダ映画社 <国立国際美術館> 〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55
<お問い合わせ> 06-6447-4680(代表) <URL> <http://www.nmao.go.jp> <アクセス> 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)より西へ徒歩約 10 分 / 京阪電車中之島線「渡辺橋駅」(2番出口)より南西へ徒歩約 5 分

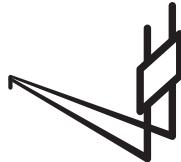


《御詫治郎吉格子》



《朝から夜中まで》

● 中之島映像劇場



中之島映像劇場

国立国際美術館では 1989 年から映像作品の収集に取り組み、常設展示場で公開していました。近年、中之島に移転してからは定期的な上映会の形を取っています。さらに 2008 年には「Still/Motion 液晶絵画」展を開催し、絵画と映像とが交錯し合う現代の美術表現に光を当てました。さらなる展開を図ろうと、昨年、2011 年の 3 月から「中之島映像劇場」と名付けました。メディアに立脚した、言葉の最も広い意味での「美術と映像」の歴史的な変遷を探り、現代の状況の解明を試み、さらには今後の動向をも予示出来ればと願っています。

● 展覧会情報：本上映会時には以下の展覧会を開催中です。

「草間彌生 永遠の永遠の永遠」「コレクション展」
2012 年 1 月 7 日(土)～4 月 8 日(日)

● 全体芸術の試み

第 3 回「中之島映像劇場」では、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催により、音楽と弁士による説明（活弁）とを伴った形で、センター所蔵の古典的名作を 35mm フィルムで上映します。いにしえの無声映画全盛期の再現となるでしょう。

美術館の企画として、これはさらに別の意味を持つといえます。

1922 年、イタリア生まれの映画人、リッチャード・カニュードは有名な「七つの芸術宣言」を著し、その中で「他の全ての芸術が絶えず向かっていた全体芸術を創造するために、映画を必要とする」と述べました。建築と音楽があり、それぞれが絵画と彫刻、詩と舞踏をたゞさえている。そして映画こそ、これらを並立させる「第七芸術」となる。つまり「動く絵」であり、それこそ「リズムを持つ芸術の規範に従って展開する造形芸術」なのです。

私たちは、このようにカニュードが映画（映像メディア）に期待した「全体芸術」のその後の展開を知っています。1960 年代以降の「拡張映画」（Expanded Cinema）や 1970 年大阪万博の数々の実験、そして現在の VJ（ビジュアル・ジョッキー）などが挙げられます。今回の企画は、「全体芸術」についての美術館における 1 つの試み／挑戦です。

上映作品

A プログラム 《御詫治郎吉格子 (おあつらえじろきちごうし)》

日本映画 / 1931 年 / 80 分 / 監督：伊藤大輔 /撮影：唐沢弘光

解説：時代劇映画を築きあげた巨匠、伊藤大輔（1898 ～ 1981 年）が監督した、昭和初期を代表する作品の中で現存する数少ないもの。主人公、鼠小僧次郎吉を演じるのが、大河内傳次郎。大阪を舞台とした、次郎吉をめぐる恋愛物語となっています。

B プログラム 《朝から夜中まで》 Von morgens bis mitternachts

ドイツ映画 / 1921 年 / 69 分 / 原作：ゲオルグ・カイザー (Georg Kaiser)

監督：カール・ハインツ・マルティン (Karlheinz Martin) / 撮影：カール・ホフマン (Carl Hoffmann)

解説：ドイツ表現主義演劇の影響下に作られた映画作品。銀行の金を着服したあげく、破滅する出納係の物語。日本では同じ原作を築地小劇場が舞台化しています（1924（大正 13）年 12 月。ちなみに村山知義が担当した舞台美術は、当時大変な評判となりました）。



国立国際美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55 TEL 06-6447-4680 (代表)
△ 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」(3 番出口)より西へ徒歩約 10 分
△ 京阪電車中之島線「渡辺橋駅」(2 番出口)より南西へ徒歩約 5 分

● 活弁

澤登 翠 (さわと・みどり) / 各日 15 時の回を担当)

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。日本を代表する弁士として国内はもとよりフランス、アメリカほかの海外公演を通じて、「弁士」の存在をアピールし高い評価を得ている。「伝統話芸・活弁」の継承者として「活弁」を現代のエンターテインメントとして甦らせ、文化庁芸術祭優秀賞ほか数々の賞を受賞している。適確な作品解釈による多彩な語り口で、いままでに 500 本以上の様々なジャンルの無声映画の活弁を務めている。著書に『活動弁士 世界を駆ける』(東京新聞出版局 / 2002 年)がある。



● 音楽

柳下 美恵 (やなした・みえ) / 全プログラム担当)

無声映画伴奏者。武蔵野音楽大学器楽科（ピアノ専攻）卒業。1995 年、朝日新聞社主催の映画生誕 100 年記念上映会でデビュー以来、国内外の映画祭、上映会などで公演。紀伊國屋書店クリティカル・エディション・シリーズ『裁かるるジャンヌ』『魔女』の音楽を担当。本格的な国際デビューとなつた 2010 年のボルデノーネ無声映画祭（イタリア）では、島津保次郎監督の 4 時間に及ぶ長編などに挑戦し、絶賛を博した。2006 年度日本映画ペンクラブ奨励賞受賞。NPO 法人 映画保存協会正会員。映画に集中できる伴奏を心がけている。

